

フェスティバルヒル Festival Hill

牝 栗毛 2023.1.8生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・吉田勝己氏 栗東・四位洋文厩舎
馬名意味・祝祭の丘

ハッピートレイルSIRE系 F4-D

サートゥルナーリア 黒鹿毛 2016	ロードカナロア 鹿毛 2008	キングカメハメハ レディブラッサム
	シーザリオ 青毛 2002	スペシャルウィーク キロフプリミエールGB
ミュージアムヒル 鹿毛 2015	ハーツクライ 鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA アイリッシュダンス
	ロレットチャペル 鹿毛 2003	フレンチデピュティUSA サンタフェトレイル

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA M3×S4
Northern Dancer S5×M5

INTERVIEW

山田翔太 厩舎長（ノーザンファーム空港）

能力の高さが感じられました

イヤリングから来たのは兄ミュージアムマイルが活躍する前でしたが、当時から能力の高さが感じられました。新馬戦での勝ち方が良かったので、重賞でも活躍できるのではないかと期待が膨らみました。レースは直線で届くのかなと思いましたが、C.デムーロ騎手がこの馬の能力を引き出す素晴らしい騎乗をしてくれました。芝のマイルは圏内だと思います。



S.Naka

元気な姿を見せてほしい。

初めの勘章を獲得したレースの3週間後に骨折が判明。2歳女王決定戦は回避することとなったが、春の大舞台には元気な姿を見せてほしい。

ミュージアムマイルの半妹にあたる

本馬は6月のデビュー戦を鋭く差し切った快勝。もうひとつ流れに乗れず、3着に敗れた新潟2歳Sでも出走馬中唯一、32秒台の上がりタイム(32秒5)をマークし、非凡な瞬発力を印象付けていた。そんな前走の鬱憤を晴らし、初の勲章を獲得したレースの3週間後に骨折が判明。2歳女王決定戦は回避することとなったが、春の大舞台には元気な姿を見せてほしい。

父サートゥルナーリア

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央10戦6勝(皐月賞^{G1}、ホープフルS^{G1}、神戸新聞杯^{GII}、金鯱賞^{GII}、有馬記念^{G1}2着)、最優秀3歳牡馬、21年から供用〔代表産駒〕ショウヘイ(京都新聞杯^{GII})、ファンダム(毎日杯^{GIII})、フェスティバルヒル(本馬)、アンドウーリル(アイビーS・L)、カヴァレリッツォ(デイリー杯2歳S^{GII}2着)、コートアリシアン(新潟2歳S^{GIII}2着、ニュージーランドトロフィー^{GIII}3着)、レッドキングリー(東京スポーツ杯2歳S^{GIII}3着)、クラウドディアイ(京都2歳S^{GIII}3着)、エストゥペンダ(クイーンC^{GIII}3着)

母ミュージアムヒル

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央22戦3勝(江の島特別、フローラルウオーク賞、スイートピーS^{Gp}2着)

ミュージアムマイル(22 牡父リオンディーズ)中央9戦4勝(皐月賞^{G1}、セントライト記念^{GII}、黄菊賞、天皇賞(秋)^{G1}2着、朝日杯フューチュリティS^{G1}2着)〔母〕

フェスティバルヒル 本馬(23 牝父サートゥルナーリア)中央3戦2勝(ファンタジーS^{GIII}、新潟2歳S^{GIII}3着) 獲得総賞金44,785,000円

(24 牡父ロードカナロア)

(25 牡父シュネルマイスターGER)

祖母ロレットチャペル

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央0勝。17年死亡

チャーチクワイア(09 牝父ネオユニヴァース)中央4勝(日野特別、春菜賞)、マイユニバース 〔母〕(九十九里特別、あずさ賞)、ペツレグリーニ 〔母〕(セントポーリア賞)の母

カレンバッドボーイ(10 牡父ディーブインパクト)中央3勝(春振山特別、渥美特別、障害1勝)

アルター(12 牝父ネオユニヴァース)中央5勝(御堂筋S、芦ノ湖特別)

ミュージアムヒル(15 前出)

曾祖母サンタフェトレイル

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央5勝(福島TV杯、長万部特別、若潮賞)、05年死亡

キングストイレイル(02 牡父サンデーサイレンスUSA)中央4勝(セントライト記念^{GII}、京成杯オータムH^{GIII}、オールカマー^{GII}2着、京王杯2歳S^{GII}2着、ダービー卿チャレンジトロフィー^{GII}2着)、愛、英0勝、種牡馬

ロレットチャペル(03 前出)

サンタフェイレユ(04 牝父アグネスタキオン)中央1勝(フェアリーS^{GIII}2着)

兄譲りの鋭い末脚で重賞初制覇

過去10年間の優勝馬のうち、重賞初挑戦で勝利を飾った馬が9頭を占めるファンタジーS。しかし実施時期が1週間繰り上がり、秋の天皇賞の前日に行われた2025年は重賞好走歴を持つ2頭が中心勢力を形成し、新潟2歳Sの3着馬フェスティバルヒルが1番人気、函館2歳S2着のブラックチャリスが2番人気の支持を集めた。上位の4頭が0秒1差にひしめいた接戦を制したのはフェスティバルヒル。サートゥルナーリア産駒の良血馬が、兄譲りでもある鋭い決め手を冴え渡らせ、重賞初制覇を果たした。

軽快なダッシュで飛び出したマープルパレスに、メイプルハッピー、フル

ールジェンヌが並びかけ、序盤の先行争いは3頭が雁行。このうちメイプルハッピーは好位に控え、ブラックチャリスは虎視眈々とその背後を進む。フェスティバルヒルのC.デムーロ騎手は中国のインにつけたものの、前が壁になった格好の3コーナー手前で後方3番手に後退。スタート直後に挟まれる不利を受けた3番人気のメイシヨウハツケイもその外で末脚を温存した。緩みのないラップを刻んだ前の2頭は直線半ばまで火花を散らしたが、残り200m地点では内ラチ沿いを突いて伸びたブラックチャリスが先頭へ抜けて出す。しかしゴールの間際、その脚勢が鈍ったところへ、差に構えていた面々が一斉に強襲。ポジションが下がっても後方のインでじつくりと脚を溜め、直線に向けてから追い出されたフェスティバルヒルの決め手が一枚優り、シウナンカリス以下の追撃を抑えて勝利を手にした。

ミュージアムマイルの半妹にあたる

本馬は6月のデビュー戦を鋭く差し切った快勝。もうひとつ流れに乗れず、3着に敗れた新潟2歳Sでも出走馬中

唯一、32秒台の上がりタイム(32秒5)をマークし、非凡な瞬発力を印象付けていた。そんな前走の鬱憤を晴らし、

初の勲章を獲得したレースの3週間後に骨折が判明。2歳女王決定戦は回避することとなったが、春の大舞台には

元気な姿を見せてほしい。